

vol.53-08 (通算 605号)

2023年11月号

# やどかり

2023年11月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

## 障害福祉分野の人材不足を解消するために 予算拡大と魅力発信の必要性

少子高齢化が長らく社会問題となり、経済や社会保障に深刻な課題をもたらしています。少子化は改善の兆しを見せず、労働力不足が続いており、2014年以降、有効求職者数が求人数を上回る事態が続いています。さらに、リクルートワークス研究所によると、2040年までに全国で約1,100万人の労働力不足が予測されています(「未来予測2040 労働供給制約社会がやって来る」)。特に、物流、建設・土木、介護・福祉、接客などの職種では担い手不足が深刻で、中でも介護職員と訪問介護従事者の不足率が最も高く、不足が58万人に上る可能性が指摘されています。

障害福祉分野でも職員不足は深刻です。2023年9月の中央福祉人材センター(全国社会福祉協議会が運営し、福祉人材の確保に関する事業を行う)の「職業紹介実績報告」によれば、障害福祉の有効求人倍率は約6.5倍にも上り、職員採用はひじょうに競争が激しい状況です。

この問題を受け、きょうされんは「職員不足の実態調査」を実施し、その結果を公表しました。調査によれば、正規職員の採用率が62.4%、非正規職員の採用率が72.0%で、小規模の事業所ほど正規職員採用が難しいことが判明しました。

募集人数に対する採用人数の割合である「充足率」は、正規職員が53.5%、非正規職員が59.9%で、新卒者より中途採用者の比率が高いことも示されました。

障害福祉分野では、職員不足が慢性的な問題であり、これは支援の質だけでなく、労働環境

や職場の人間関係にも悪影響を及ぼしています。したがって、人材確保と職員の定着、そして質の高い支援は相互に結びついています。

人材確保のために、国には障害施策の予算を迅速かつ大幅に拡大することを要望します。現在、日本の障害施策予算は1.1%と、OECD(経済協力開発機構)平均の2%に比べてひじょうに低く、29位と低いランキングとなっています。賃金水準の向上は、職員の労働条件を改善し、職員不足の解決に不可欠です。

また、障害福祉の仕事には魅力があり、これを社会に伝える必要があります。障害のある人々とともに活動し、喜びや成長を共有することは、人と人とのつながりを実感し、人間としての幸福を感じるプロセスです。この魅力と価値を社会に広め、多くの人々に関心を持ってもらい、いっしょに働く仲間を増やすことが重要です。職員の定着には、経験が浅い段階での離職を減らすための研修や、職員同士の信頼関係構築が必要です。

やどかりの里では、日々の現場での活動に加え、やどかり出版の書籍制作、つなぐつくるプロジェクトを通じた地域巡回、エシカルcafeとしょかんのとなりなど、さまざまな手段を活用し、障害福祉分野の魅力と価値を積極的に広めています。私たちの役割は、自身の経験と情熱を通じて、この分野の魅力を広く社会に伝え、新たな仲間を迎え入れることです。いっしょに働く仲間を増やし、この素晴らしい分野での成長と発展を築いていきましょう。(堤 若菜)